

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 7	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
<p>Increased lifetime prevalence of dental trauma is associated with previous non-dental injuries, mental distress and high alcohol consumption.</p> <p>歯の外傷の生涯有病率の増加と過去の歯以外の外傷や精神的苦痛、アルコール多量摂取との関連</p>	
執筆者	
Perheentupa U, Laukkanen P, Veijola J, Joukamaa M, Jarvelin MR, Laitinen J, Oikarinen K.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Dent Traumatol. 2001 Feb;17(1):10-6.	
キーワード	
歯の外傷、精神的苦痛、アルコール多量摂取	
要 旨	
<p>研究の目的は地域住民をベースにした出生コホートを用いて歯の外傷の生涯有病率とその危険因子について調べることである。</p> <p>対象は健康調査を受診した31歳の者5737名である。対象者の52%が女性であった。この健康調査では歯や歯以外の外傷の既往歴、身体全体の健康状態、勤務状況や生活習慣についても調査された。</p> <p>歯折の生涯有病率は43%、歯牙欠損の生涯有病率は14%であった。男性は女性に比べ歯の外傷の既往がある者が多かった。特に精神的苦痛や外傷の既往歴は歯の外傷の危険因子であった。さらに過体重やアルコール多量摂取は歯の外傷の生涯有病率と正の関係が認められた。規則正しい身体活動は歯の外傷の発生を減少させた。社会経済的地位も歯の外傷の生涯有病率と関係が認められた。</p> <p>以上より個人的、社会的、身体的因子が歯の外傷の発生に関係していると考えられる。</p>	